



汐見の和

横浜市立汐見台小学校
令和4年8月29日
学校だより 9月号

【学校教育目標】人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子

電話 045-761-1561 FAX 045-754-6409

ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shiomidai/>



見えるものから見えないものへ

学校長 犬塚 真

夏休みの間にも新校舎の工事は着々と進み、建物の高さも感じられるようになってきました。来年の夏にはよいよ移転となります。現在過ごしているプレハブ校舎にもずいぶん愛着がわいてきたところなので、名残惜しさも感じられますが、新校舎への期待はそれを上回るものがあります。

39日間の夏休みを終えて、子どもたちが学校に戻ってきました。久々に見る子どもたちは、一回り大きくなったように感じられます。学校には大きな事故の報告もなく、ご家庭や地域の方々のご協力により無事に夏休みを過ごせたことに感謝申し上げます。

近年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各自治会・町内会の夏祭りなども見送られ、子どもたちが地域の方と接する機会が減少しています。そのような中、地域にある生活介護事業所「いそご青い鳥」より、ひまわりを用いた交流のお誘いがありました。ひまわりの種を子どもたちが植え、学校が夏休みの間はその苗の栽培を「いそご青い鳥」に引き継ぎます。その後も子どもたちがひまわりの絵を描き、その絵の額を事業所の方が作って、学校に展示するといった企画です。種を植えるポットも絵を描く紙も事業所の方が用意してくれます。人と人の直接的な交流は極力避けながらも、ひまわりやそれにまつわる様々なものに互いの思いを託しながらやり取りを重ねていく企画です。子どもたちはものを通してその向こう側にいる人の姿や思いを想像しながら活動します。直接出会わない相手だからこそ気持ちが大切になってくるのです。



かつて、わたしが学級担任をしていた二十代の頃、社会科で子どもたちがまちのいいところを見つけに行く学習をしていたことがあります。ある子どもが発見したのは、公園の花壇にきれいな花が咲いていることでした。「いいところに目を付けたね。」と、子どもをほめたのですが、その授業を見ていた当時の校長先生が「惜しいな。」と言って助言をしてくれたことを今でも大切に覚えています。このまちのいいところは、花が咲いていることではなく、花を植え、大切に育てている人がいるということや、その花を見てきれいだと感じる人がいること。だから、この子をまずほめるポイントは、その花を見つけたことと、その花をきれいだと感じたことの二つだということです。そして、その先の学習を通して、花の手入れをしている人へ思いを寄せ、感謝の思いを抱いたり、自身の社会への関わり方を考えたりすることでその子の学びをより深めていくのだということを教わりました。見えるものから見えていないものへ意識を向けていくという授業の奥深さに感銘を受け、教師として勉強すべきことがまだまだたくさんあるということを思い知らされたものでした。

7月の学校だよりでも、1年生の生活科を通して見えないものを見ようとする姿勢に触れましたが、学校教育目標である「人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子」の育成は、例えばそのようなプロセスを経て具現化されていくのだと考えています。

8月31日には、第2回学校運営協議会として、委員の皆様にご覧いただき、5時間目の授業を参観していただきます。また、9月29日には保護者の皆様へ向けた授業参観も予定しています。子どもたちが探求心を発揮しながら学びを深めていく姿をご覧いただければと思っています。